

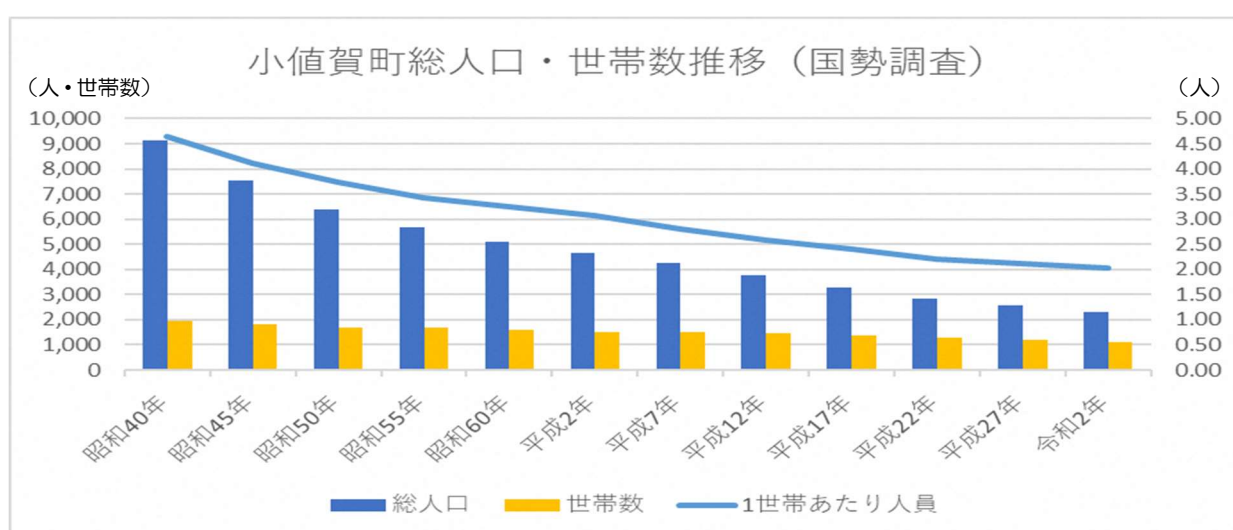
第2章 健康に関する現状と課題

小値賀町は、五島列島の北部に位置し、本島を中心にその周辺に散在する大小 17 の島から構成されています。総面積約 25 km²の火山活動によって生じた珍しい群島で、町内全域が西海国立公園に指定されています。

1. 総人口・世帯数・1世帯あたり人員の推移

日本の総人口は、平成 20 年をピークに減少に転じ、また少子高齢化の進行により、人口の構造にも変化が生じています。

小値賀町の総人口は、昭和 25 年の 10,968 人をピークに毎年減少を続けており、令和 6 年 10 月 20 日現在では 2,130 人となっています。

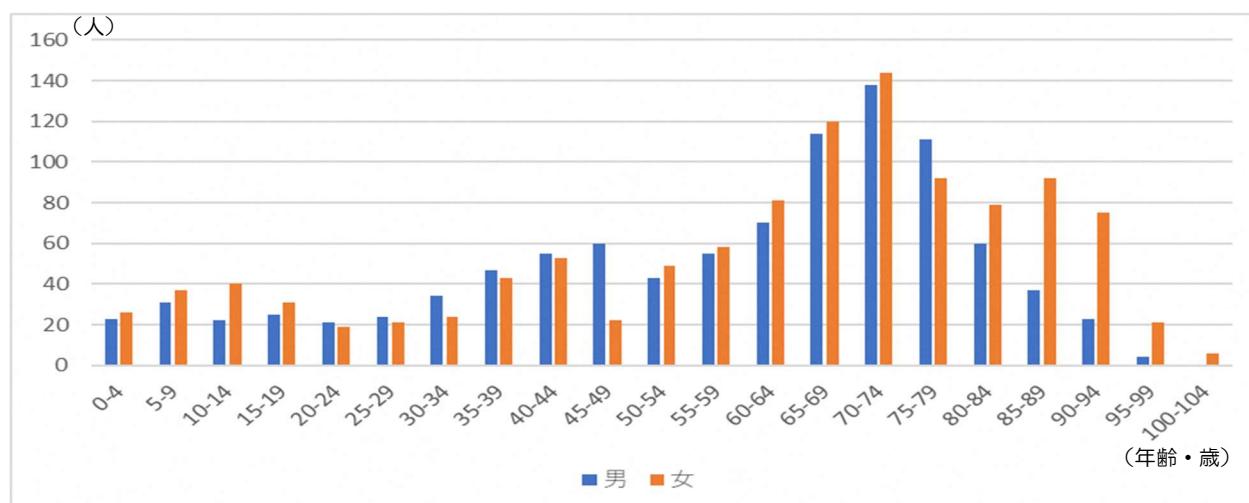


（国勢調査より）

2. 年齢別階層人口

本町の人口構成は、20 代が最も低く 70 代が最も高い状況となっています。

80 代以降から女性の人口が男性に比べ多くなっていき、85 歳を過ぎてからは極端に男女の差が現れてきます。

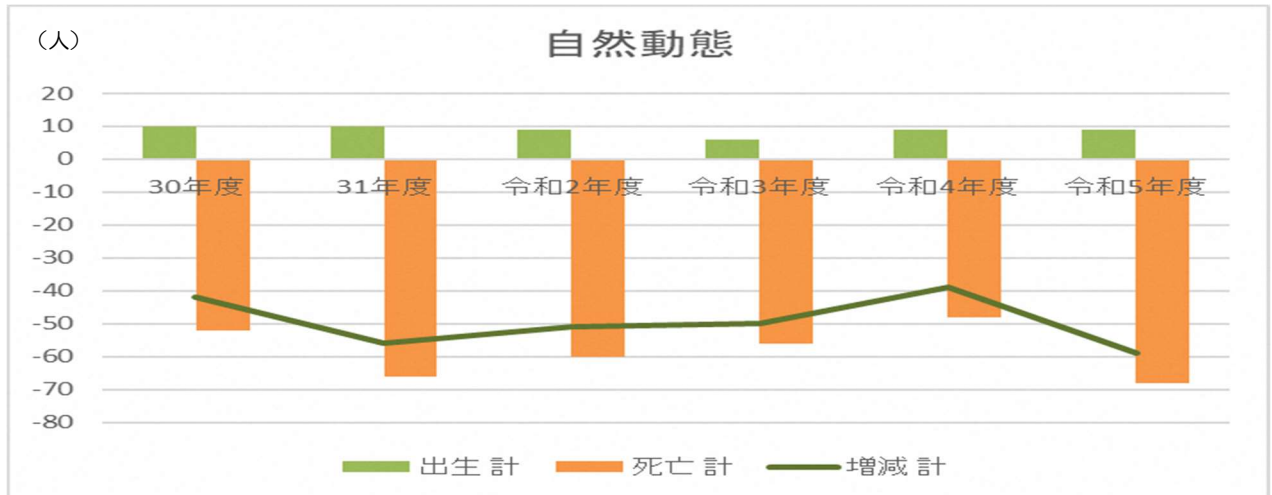


（年齢・歳）

3. 人口の年次別自然動態及び社会動態

(1) 自然動態

死亡数は毎年 50 人前後であるのに対し、出生数は平均 10 数人で推移しており、自然増減は毎年約 40 人の減でほぼ横ばいの状態でしたが、ここ数年は死亡数が 60 人を超える年もある一方で出生数は変わらず、減少幅が大きくなってきています。



(住民異動集計表より)

(2) 社会動態

毎年、転出者は 100 人程度、転入者は約 80~100 人と一定人数で推移していましたが、令和 5 年度は転出者が 100 人を超えて増加し、26 人の社会減となりました。

社会的増減は毎年大きな変動はありませんが、上記の自然動態の減少と合わさって、町の人口は年々減少しています。

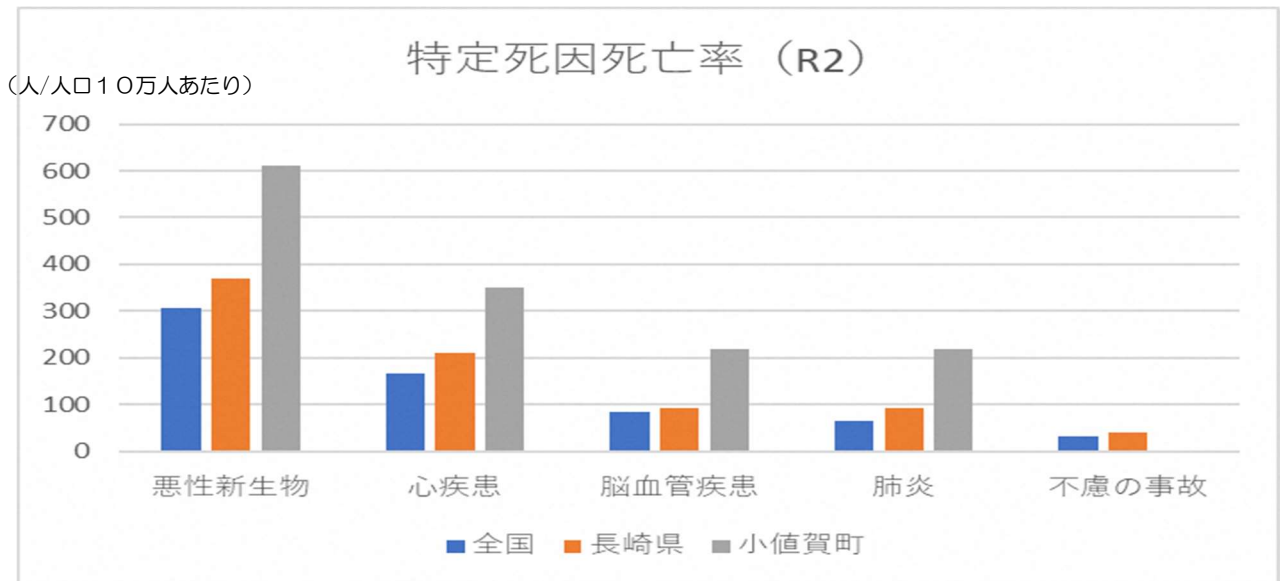


(住民異動集計表より)

4. 死因別死亡率

これは、人口を10万人と想定した場合の死亡者の数をグラフにしたものです。

本町では対象者数が少ないため、僅かな数でも大きく影響を受けますが、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患・肺炎の順で死因率が高い傾向となっており、全国平均、県平均を大きく上回っています。これは小値賀町の高齢化率が国・県と比較して著しく高いことが原因と考えられます。（「5. 高齢化率の推移」を参照）また、病状の早期発見には特定健診やがん検診の受診が効果的ですが、第3次計画時点では目標受診率を達成できていないものがほとんどです。（P15「（3）分野ごとの評価 ①生活習慣」を参照）



（令和2年簡易生命表－特定死因死亡数・率－市町別より）

5. 高齢化率の推移

本町の高齢化率の推移をみると5年前と比べ約2%増加しています。令和5年度の高齢化率は52.3%となっており、50%を超えています。

本町は、国・県の水準を大きく超えて人口の約2人に1人が高齢者である超高齢化社会の町であり、元気で達者な高齢期を迎えるための準備が必要だと言えます。

